

## 第5学年 音楽科学習指導案

日 時：平成14年10月18日（金）6校時  
児 童：5年2組（男12名女13名計25名）  
指導者：月井 多美子  
場 所：音楽室

- 1 題材名 曲の気分をとらえて  
「秋にさよなら」

### 2 題材について

#### (1) 題材について

音楽科の第5学年及び第6学年の内容の「A表現」（2）に「曲想や音楽を特徴付けている要素を感じ取って工夫できるようにする。」ア歌詞の内容や楽曲の構成を理解して、それらを生かした表現の仕方を工夫すること、（4）には「音楽をつくって表現できるようにする。」ア曲の構成の工夫し、簡単なリズムや旋律をつくって表現すること、イ自由な発想を生かして表現し、いろいろな音楽表現を楽しむこととある。

それを受けて本題材では、楽曲の持つ気分や全体的な曲想を感じ取って、表現豊かな表現を工夫する活動を進めていく。またこの曲はイ短調、3拍子の旋律が歌詞の情景と重なり合っ曲全体にどことなく寂しげな感じ出していることから、旋律や拍子は曲想を醸し出す重要な要素であることを感じさせていきたい。

歌唱だけでなく朗読の工夫をはじめ、音や音楽の創造的な活動にまで発展させて、子ども一人一人の感性を土台にして自由で創造的な表現活動を進めていく。

#### (2) 児童について

学級の児童は、ほとんどが音楽の学習を楽しんでいる。歌うことにも抵抗なく取り組んでいる。4年生の時に合唱指導を受けたことで、歌う姿勢や発声の仕方が身についている児童が多く見られる。歌うことは好きだが、曲想を感じ取って表現豊かに歌うことができる児童は、少ない。また、楽譜を読むことが苦手だと感じている児童が多く、楽器の演奏となると苦勞している様子が見られる。

コンピュータを使った学習には、ほとんどの子が意欲的に取り組んでいる。5年生になってからは、社会科や理科でインターネットを使って調べる学習を行ってきた。音楽では、「音楽帳」のソフトを使い伴奏づくりの活動を行った。

#### (3) 指導にあたって

本題材では、楽曲のもつ気分を感じ取って表現を工夫する活動を進める。曲想を感じるよりどころとして「旋律や響きの感じ」と「歌詞の内容」に焦点を当てて、ここから工夫の糸口を広げていく。

今まで学習してきたハ長調の旋律と比較して感じの違いに気づいたり、短調の気分を味わったりしながら視唱や視奏の活動を進めていきたい。楽典的な学習に深入りせず、あくまでも二つの調の感じの違いを音階から感じ取るということに重点を置きたいと考えている。

ふしづくりは、イ短調に親しむための教材で、モデルに示された4小節の旋律の雰囲気を感じ取って、続きの旋律を工夫する活動を展開する。感覚的にとらえることを基本とした活動となるので、形式や理論などにはこだわらず、子どもたちの感覚を重視した自由な展開にしていきたい。

(4) 題材におけるコンピュータ活用

本題材では、コンピュータを次のように活用する。

教科書にある旋律をもとに（前半4小節）、後半の4小節の旋律をつくる際に、創作や自己表現の道具として活用する。児童の実態から見て、楽譜を読んだり書いたりすることが苦手な児童が多いことから、コンピュータを活用することで、苦手な児童も何度でもやり直しながら、自分の思いどおりに自由に創作活動ができると考えられる。

発表する段階で画面に楽譜を映し出しながら音楽を聴くことで、耳からだけでなく目で見てさらに短調の特徴を理解することにつながっていくと考えられる。

3 題材の目標

(関心・意欲・態度)

- ・短調の旋律の動きや伴奏の響きに関心をもち、進んで表現しようとする。

(感受や表現の工夫)

- ・曲想を感じ取って聴いたり、短調の感じを生かして表現の工夫をするようにする。

(表現の技能)

- ・短調や3拍子を生かして歌ったり、簡単な旋律をつくったりするようにする。

(鑑賞の能力)

- ・長調や短調の感じを聴きくらべたり、短調の感じを味わって聴いたりするようにする。

4 指導計画 (5時間)

学習内容	時間	コンピュータ及び周辺機器の使い方
・語感を生かした歌い方を工夫する。 ・長調と短調の違いを感じ取る。	1時間	
・短調の特徴を感じ取って、歌い方に生かしたり、旋律をつくったりする。	2時間	コンピュータ (創作や自己表現の道具)
・つくった旋律をグループ内で聴きあう。	1時間	コンピュータ (伝達の道具)
・つくった旋律を聴きあいながら、短調の特徴を感じ取る。	1時間 (本時)	コンピュータ プロジェクタ (まとめ・伝達の道具)

5 本時の指導

(1) 目標

(鑑賞の能力)

- ・友達がつくった旋律を聴きあいながら短調の特徴を感じ取るようにする。

(2) コンピュータ活用の視点

お互いの作った曲を画面で見ながら聴くことにより、短調の特徴を生かした表現の良さに気づきあえるのではないか。

○<使用者> 児童 <場面> 展開 伝達の道具として まとめ道具として

○使用ソフト 音楽帳

(3) 展開 ◎主発問 ●指示 ◇支援 ☆評価

段落	学習活動	主発問と指示・予想される反応	支援と評価の工夫
つかむ 5分	1 既習曲を歌う。  2 学習課題をつかむ。	●「秋にさよなら」を気持ちをこめて歌いましょう。  ●今日は、グループの代表の人が作ったふしみんなで聴きあって短調の特徴を感じ取りましょう。  みんなのつくったふしをききあおう。	◇楽しく音楽的な雰囲気 のスタートを心がける。  ◇各グループから数名の 子に発表させ、集中し てじっくり味わって聴 くようにする。
見通す 3分	3 聴き方の確認をする。	◎どんなところに気をつけて聴いた らいいですか。 ・よかったところはどこか。 ・短調の感じになっていたか。 ・続きがあっていたか。	◇短調の特徴について思 い出させる。
ふかめる 30分	4 発表する。	◎発表する人は、どんなところに気 をつけたか、どんなところを工夫 したのか発表しましょう。  ◎短調に聴こえましたか。 どんなところでそう感じましたか。 ・寂しい感じだった。 ・暗い感じ感じがした。 ◎楽譜を見て考えてみましょう。 ・ラで終わっている。 ・ソ#が使われている。 ●発表してもつらったふしを歌って みましょう。	◇コンピュータ・ プロジェクタ (まとめの道具) ◇初めは音だけ聴かせる。  ☆友達の発表を短調かど うか聴きわけている。 (挙手) ☆気に入った作品をみつ けながら感想を述べあっ ている。 (発表)
まとめる 7分	5 学習のまとめをする。	◎今日の学習を振り返ってみましょ う。 ・今日の活動を振り返って自己評 価し、感想を書く。 ・発表する。  ●「秋にさよなら」を短調の気分を 感じながら歌いましょう。	◇自己評価を発表するこ とで、課題についての まとめをする。  ◇学習のまとめとして、 振り返りながら歌える ようにする。

(4) 評価

(鑑賞の能力)

友達のつくった旋律を聴きあいながら、短調の特徴を感じ取ることができたか。

(発表 評価カード)

6 板書計画

みんなのつくったふしをきき  
あおう

- ・よかったところはどこか。
- ・続きがあっていたか。
- ・短調の感じになっていたか。